



チェコの こどものほん



みなさん、チェコ共和国^{きょうわこく}はどのあたりにある国^{くに}か知^しっていますか？チェコ共和国は、ドイツ、ポーランド、オーストリア、スロバキアにかこまれたヨーロッパの真^まん中^{なか}あたりに位置^いちしています。

じつは、チェコゆかりの絵本^{えほん}画家^がや作家^さの本^{ほん}が、日本^{にほん}でたくさん出版^{しゅっぱん}されています。そのなかから、絵本画家^{ちゅうしん}を中心^{しん}に、いくつかおすすめの本^{しょうかい}を紹介^{しょうかい}します。

ピーター・シス

『三^{みつ}つの金^{きん}の鍵^{かぎ} 魔法^{まほう}のプラハ』(えほん)

柴田 元幸／訳 BL 出版

少年^{しょうねん}が気球^{ききゅう}から降り立^おったのは、だれもいない広場^{ひろば}。少年^{しょうねん}は生まれ育^うったプラハの家^{いえ}にたどりつく。でも鍵^{かぎ}がなくて入れない。街^{まち}をさまよい、お城^{しろ}、図書館^{としょかん}、時計台^{とけいだい}へ行^いって鍵^{かぎ}を探^{さが}す。ふしぎなモノたちに出会^{であ}い、むかしを思い出^{おも}しながら、家^{いえ}の鍵^{かぎ}をあけると…。

- ・『オーシャンワールド』(えほん) ブックローン出版
- ・『コモドっ!』(えほん) 二宮 由紀子／訳 ブックローン出版

- ・『ビーチボール』（えほん） ブックローン出版
- ・『ニッキーとヴィエラ ホロコーストの^{しず}静かな^{えいゆう}英雄と^{すく}救われた^{しょうじょ}少女』（えほん） 福本 友美子／訳 BL 出版
- ・『マツくんのきょうりゅうだ!』（えほん）
BL 出版



ヘレナ・ズマトリーコバー

『りんごのき』（えほん）

イト・アルト・ハ°チカ／さく うちだ りさこ／やく 福音館書店
あるゆきのひ、マルチンは にわに ぼうを みつけました。おかあさんが りんごのきだと おしえてくれました。おひさまが、ぽかぽか じめんをあたため はるがやってくると、りんごのきに はながさきました。マルチンは りんごのきに みずをやったり、つよいかぜにハラハラしたり。そして とうとう あかいりんごが できました。

- ・『かあさんねずみがおかゆをつくった チェコのわらべうた』（えほん）
井出 弘子／訳 福音館書店
- ・『ぼくのかぞく』（えほん）
ロール／さく 千野 栄一／やく 福音館書店
- ・『マルチンとナイフ』（えほん）
イト・アルト・ハ°チカ／さく うちだ りさこ／やく 福音館書店
- ・『ぼくだってできるさ!』（989） イト・アルト・ハ°チカ／さく
むらかみ けんた／やく 富山房インターナショナル
- ・『ホンジークのたび』（989）
ボフミル・ジール／ぶん 井出 弘子／やく 童心社

イジー・トウルンカ

『^こほたるの子 ミオ』（えほん） ホリガー／文 メルヘン社

ミオは、とうみんからさめて はるがくるのを たのしみにしています。おとうさんといっしょに、はじめて ランタンをもって そらを とぶことができるのです。それは すばらしい よるでした。あるひ、ミオは おとうさんの いいつけをやぶり ひとりで こっそりとびだしました。ところが、こわいめに あったり、うちがわからなくなったり…。でも、すてきな であいも ありました。

・『おじいさんのおくりもの』（えほん）

ヤン・アルダ／さく やすかわ あやこ／やく ほるぷ出版

・『おとぎばなしをしましょう』（えほん） フランシエイク・フルビーン／ぶん
きむら ゆうこ／やく プチグラパブリッシング

・『こぐまのミーシャ、サーカスへ行く』（えほん） ヨゼフ・メンツェル／文
平野 清美／訳 平凡社



クヴィエタ・パツオウスカー

『^{ちい}小さな^{はな}花の^{おうさま}王様』（えほん） 川本 三郎／訳 太平社

むかし むかし、ひとりの小さな王様は、小さな^{しろ}お城にすみ、花をそだてていました。ある日、王様はなにかものたりない^{おも}と思い、お姫様^{ひめさま}をさがす^{たび}旅にでました。晴れの日も、雨の日も、夜^{よる}になってもさがしていると、チューリップの花のなかから、やわらかい小さな^{こえ}声がきこえてきます。ずっとさがしていたお姫様でしょうか。

- ・『あか、あお、きいろ、色^{いろ}いろいろ』（えほん）

酒寄 進一／訳 ほるぷ出版

- ・『紙^{かみ}の町^{まち}のおはなし』（えほん） ゆうき まさこ／訳 小学館

- ・『ふしぎないきもの』（えほん） アネリス・シュヴァルツ／ぶん

いけうち おさむ／やく ほるぷ出版

- ・『まるさんかくしかく かたちあそびのほん』（えほん）

池田 香代子／訳 ほるぷ出版

ズデネック・ミレル



- ・『もぐらとずぼん』（えほん）

イト・アルト・ハ・チカ／ぶん うちだ りさこ／やく 福音館書店

おおきな ほけつとのついた あおいずぼんを みかけたもぐらは、じぶんも そのずぼんが ほしくてたまらなくなりました。そして じぶんでつくろうと、あまで いとをつくるところから はじめます。このとり、はりねずみ、くも、あり、えびがに、よしきりなど、たくさんの いきものがきょうりよくして、すてきな あおいずぼんが できあがりました。

- ・『しりたがりやのこいぬとおひさま』（えほん）

イバ・ハルツィーコバー／さく ちの えいいち／やく 偕成社

- ・『しりたがりやのこいぬとたまご』（えほん）

イバ・ハルツィーコバー／さく ちの えいいち／やく 偕成社

- ・『せかいでいちばんおかねもちのすずめ』（えほん）

イト・アルト・ハ・チカ／ぶん きむら ゆうこ／やく
プチグラパブリッシング

- ・『ひよことむぎばたけ』（えほん）

フランチエク・フルビーン／ぶん ちの えいいち／やく 偕成社

- ・『もぐらくん、おはよう』（えほん）

ヨゼフ・ブルクホル／作 木村 有子／訳 偕成社

- ・『もぐらくんとパラソル』（えほん）

ルナ・ド・スコロヴァー／作 木村 有子／訳 偕成社

- ・『ゆかいなきかんしゃ』（えほん）

ヤン・チャレック／ぶん きむら ゆうこ／やく ひさかたチャイルド

ヨゼフ・ラダ



『きつねものがたり』（989）

内田 莉莎子／やく 福音館書店

森^{もり}ばんに ひろ^こわれた子ぎつね。本^{ほん}が大^{だい}すきな森^{もり}ばんのむすめは、まい^{にち}日 子ぎつねに 本をよんであげました。子ぎつねは、ものがたりにで^でてくる きつねのよう^{よう}に、かしこく^{かしこく}ずる^{ずる}く^くなろうと^と 決^{けっ}心^{しん}しました。ある^{ある}日、首^く輪^びが ゆる^{ゆる}くなっていることに 気^きづいた子ぎつねは、森を にげ^{にげ}だしました。

- ・『おおきくなったら チェコのわらべうた』（えほん）

内田 莉莎子／やく 福音館書店

- ・『きつねがはしる チェコのわらべうた』（えほん）

木村 有子／編訳 岩波書店

- ・『きつねとおおかみ イソップものがたりよりー28 のぐうわ』（えほん）

ヤン・ウラーナ／ぶん かなやま みさこ／やく ほるぷ出版

・『どうぶつ だいすき』（えほん）

イジー・ジャーチク／文 飯島 周／訳 平凡社

・『おばけとかっぱ』（989）

岡野 裕・内田 莉莎子／やく 福音館書店

・『黒ねこミケシユのぼうけん』（989）

小野田 澄子／訳 岩波書店



ヨゼフ・チャペック

『こいぬとこねこは ^{ゆかい なかま} 愉快な仲間

なかよしのふたりが **どんなおもしろいことをしたか**』（989）

いぬい とみこ・井出 弘子／訳 河出書房新社

こいぬとこねこは ^{だい なかよ もり なか ちい} 大の仲良し。森の中の小さなうちで、いっしょにすんでいます。人間のように ^{にんげん} 生活したいけど、なかなかうまくいきません。床を ^{ゆか} そうじするのも、手紙を書くのも ^{てがみ か} おおさわぎ。ケーキを焼いたら、それぞれが ^い すきなものを ^{じどうしゃ} 入れて、自動車のタイヤ ^{おお} ぐらいの大きさに。ときにはけんかもするけれど、ふたりはなかよく ^{よく} くらしています。

・『^{あお そら} 青い空』（えほん）

フランシエク・フルビーン／詩 井出 弘子／訳 偕成社

・『さあ、みんなおはなししよう』（989）

井出 弘子／訳 童心社

・『ひいおじいさんと ^{とうぞく はなし} 盗賊の話』（989）

関沢 明子／訳 フェリシモ出版

カレル・チャペック

『^{なが}長い^い長い^いお医者^{はなし}さんの話』(989)

中野 好夫／訳 岩波書店

7つの^{どうわ}童話の^{たんべんしゅう}短編集。「長い長いお医者さんの話」は、ウメ^みの実をのどにつまらせた^{まほうつか}魔法使いのために、弟子が次々お医者さんをつれてきますが、どのお医者さんも話が長くて…。「カッパの話」は、日本^{にほん}だけじゃないチェコにもいるカッパの話。チェコのカッパは、^{しょうばい}商売もするし、^{すいえいせんしゅ}水泳選手にもなるのです。

・『^{いつ}五つのパン チャペック ショートコレクション』(989)

小野 裕康／訳 理論社

・『こどものための^{せかいめいさくどうわ}世界名作童話 21 ソリマンのおひめさま』(908)

千野 栄一／やく 集英社

・『^{ゆうびんや}郵便屋^{はなし}さんの話』(989) 関沢 明子／訳 フェリシモ出版

チェコのむかしばなし

『^{じゅうに}十二^{つき}の月たち』(えほん)

ボジエナ・ニェムツォヴァー／再話 出久根 育／文・絵 偕成社
あるところに、おかあさんとふたりのむすめがすんでいました。おかあさんは、ままむすめのマルシュカに ^{がっ}いじわるばかり。1月のある日、おかあさんは、^ひ山で^{やま}スミレをつんでくるよう ^い言いつけます。マルシュカが山のなかを ^ひさまよっていると、たき火をかこむ 12人の^{おとこ}男たちに ^{にん}であいました。この男たちは 十二の月でした。

・『ヴォドニークの水の館』(えほん)
みず やかた

まき あつこ／文 降矢 なな／絵 BL 出版

・『金色の髪のお姫さま チェコの昔話集』(989)
きんいろ かみ ひめ むかしばなししゅう

カレル・ヤロミール・エルバン／文 木村 有子／訳 岩波書店

・『火の鳥ときつねのリシカ チェコの昔話』(989)
ひ とり むかしばなし

木村 有子／編訳 岩波書店



チェコ語のほん

ちゅうおうとしょかん しつ やく さつ
中央図書館のこども室には、チェコ語のほんが約40冊あります。

にほんごやく よくら
まずは、日本語訳されている本と、読み比べてみませんか。

・『Jak zvířata spí』 Jiří Dvořák／文 Baobab

・『どうぶつたちがねむるとき』(えほん) イジー・ドヴジャーク／作 偕成社

・『Můj medvěd Flóra』 Daisy Mrázková／文・絵 Baobab

・『ぼくのくまくん フローラ』(えほん) デイジー・ムラーズバー／作・絵 偕成社

・『Zahrada』 Jiří Trnka／文・絵 Studio Trnka

・『ふしぎな庭』(989) イジー・トルカ／作 ほるぷ出版

・『Říkali mi Leni』 Zdenka Bezděková／作 Albatros Media

・『レコとよばれたわたし』(989)

スデニカ・ヘズチェコバー／作 らくだ出版



さかいしりつとしょかん れいわねんがつはっこう
堺市立図書館 令和7年3月発行

ひょうき よ が な さくひんほんぶん じゆん
(表記、読み仮名は、作品本文の表記に準じています)

うし すうじ ぶんるいばんごう あらわ
(タイトルの後ろの数字は、分類番号を表しています)

